

報道機関 各位

令和元年9月19日

富山海洋サミット

2019SCOR 総会・日本海洋学会秋季大会の開催について

令和元年9月22日(日)～29日(日)において、2019SCOR(海洋研究科学委員会、1957年創立)総会(17年ぶり日本2回目)と、2019日本海洋学会(1941年設立)年会(富山初開催)を富山国際会議場にて開催いたします。

(1)SCOR 総会は、世界22カ国から各国を代表する著名な海洋学者たち全47名が富山県に集まり、最新の海洋の諸問題に対し学際的なアプローチや解決策などの議論を行います。

本国際会議の開催を記念し、9月22日(日)は富山県とSCORの共催で(2)「増える海洋環境への脅威と対応 海洋ごみの今とその先へ」シンポジウムを開催いたします。また、(3)2019年度日本海洋学会秋季大会期間中に最新の研究のハイライト講演も実施いたします。最終日9月29日(日)には(4)沿岸海洋シンポジウム「変わりゆく海：沿岸海域への温暖化の影響」を企画しており、午前の部では広域かつ学術専門の観点から学際的議論の場とし、午後の部では一般市民も対象にして富山をクローズアップし、「富山・富海・富幸(とやま・とむらみ・とみさち)」に関する研究報告や国連が提唱している持続可能な開発目標(SDGs)も視野に入れた今後の実施可能な対応策の提案を行います。

(2)と(4)については別紙を参考下さい。(3)についてはリリース「日本海洋学会 2019年度秋季大会 開催のお知らせ」をご参考下さい。

つきましては、上記の会議およびシンポジウムについて取材・報道方どうぞよろしくお取り計らいお願い申し上げます。

【本件に関する問い合わせ先】

(1)(4)張 勁

富山大学大学院理工学研究部(理学)教授
TEL. 076-445-6665

(2) 富山県環境政策課(地球環境係)
TEL : 076-444-8727

(3)堀川 恵司

富山大学大学院理工学研究部(理学)准教授
TEL. 076-445-6668



富山県 & SCOR 共催シンポジウム
増える海洋環境への脅威と対応
海洋ごみの今とその先へ

2019 9/22 日曜
13:00-16:00 (開場 12:30)
富山国際会議場
多目的会議室 203・204 号室

夢の素材として登場したプラスチック。安くて軽くて気軽に使えて加工しやすい。さらに丈夫で長持ちと、いまや私たちの暮らしに欠かせない存在です。しかし、その特徴が自然環境に「痛み」を与えています。ウミガメが飲み込んで消化できない。小さくなくても分解されず、有害物質を吸いつける。夢の素材が一転して大きな社会問題になっています。そんなプラスチックと、どう付き合っていくのか。海の現状をお話しながら、一人ひとりができることを考えます。

定員 180 名
(一般、学生)
参加無料
申込みは裏面へ

同時通訳あり

 富山県



プログラム

- 13:00 開会あいさつ(富山県)
13:10 招待講演: Dr.Victor Martinez Vicente
(SCOR WG FLOTSAM 委員; 英国 PML)
「先進技術はごみ問題を解決できるか
~衛星、ドローン、リモートセンシングの最先端」
13:50 富山県の活動報告
1. (公財)環日本海環境協力センター
2. 富山県環境政策課
3. 富山国際大学付属高等学校

- 14:20 休憩
14:40 パネルディスカッション
コーディネーター: 張 勁 (SCOR 副議長・富山大学教授)
パネリスト: Dr.Victor Martinez Vicente
(SCOR WG FLOTSAM 委員; 英国 PML)
田子泰彦 (富山県水産研究所長)
高桑幸一 (美しい富山湾クラブ理事・事務局長)
小嶌不二夫 (株式会社ピリカ 代表取締役社長)
15:55 閉会あいさつ: 山形俊男 (SCOR 国内委員会委員長・東京大学名誉教授)
16:00 閉会

主催: 富山県、SCOR(海洋研究科学委員会) / 協賛: 国立大学法人富山大学、アール・タチバナ株式会社、株式会社アイザック
後援: 公益財団法人環日本海環境協力センター、美しい富山湾クラブ、富山県県土美化推進県民会議
問合せ: 富山県生活環境文化政策課 TEL.076-444-8727

富山県 & SCOR 共催シンポジウム

増える海洋環境への脅威と対応 海洋ごみの今とその先へ

SCOR (Scientific Committee on Oceanic Research)

国際学術会議評議会によって設立された最初の常設学際的機関。海洋の科学的問題に学際的なアプローチから解決策を導くため、世界中の海洋科学者・研究者を集め議論の場を設けている。設立は1957年、現在加盟国は31カ国。参加した国は90カ国以上、参加人数は加盟国の代表者を加えて2,000名以上である(2018年10月末時点)。

申込方法

下記参加申込書に必要事項を記入の上、郵送、ファックス、またはEメールで、お申込みください。

- ◎会場準備の都合上、なるべく事前申込にご協力ください。
- ◎参加票はありません。直接会場にお越しください。
- ◎定員になった場合のみご連絡いたします。
- ◎当日は、同時通訳をご用意しています。

申込先

富山県生活環境文化政策課環境政策課

〒930-0005 富山県富山市新桜町5番3号 第2富山電気ビルディング

FAX : 076-444-3480

Eメール : akankyoseisaku@pref.toyama.lg.jp

◎申込締切 9月9日(月) ※先着順



富山駅より

- 徒歩で約15分
- 市内電車(セントラム)乗車約7分
「国際会議場前」下車
- 地鉄バス約5分
「城址公園前」下車
徒歩3分

※駐車台数(有料)に限りがございますので、なるべく公共交通機関をご利用ください。

参加申込書	参加人数が複数の場合、下記に参加希望者全員の氏名をご記入ください。
ふりがな	ふりがな
氏名	氏名
所属	ふりがな
TEL	氏名
Eメール	ふりがな
	氏名

※個人情報、本シンポジウム以外の目的では使用しません。

沿岸海洋シンポジウム 変わりゆく海 沿岸海域への 温暖化の影響

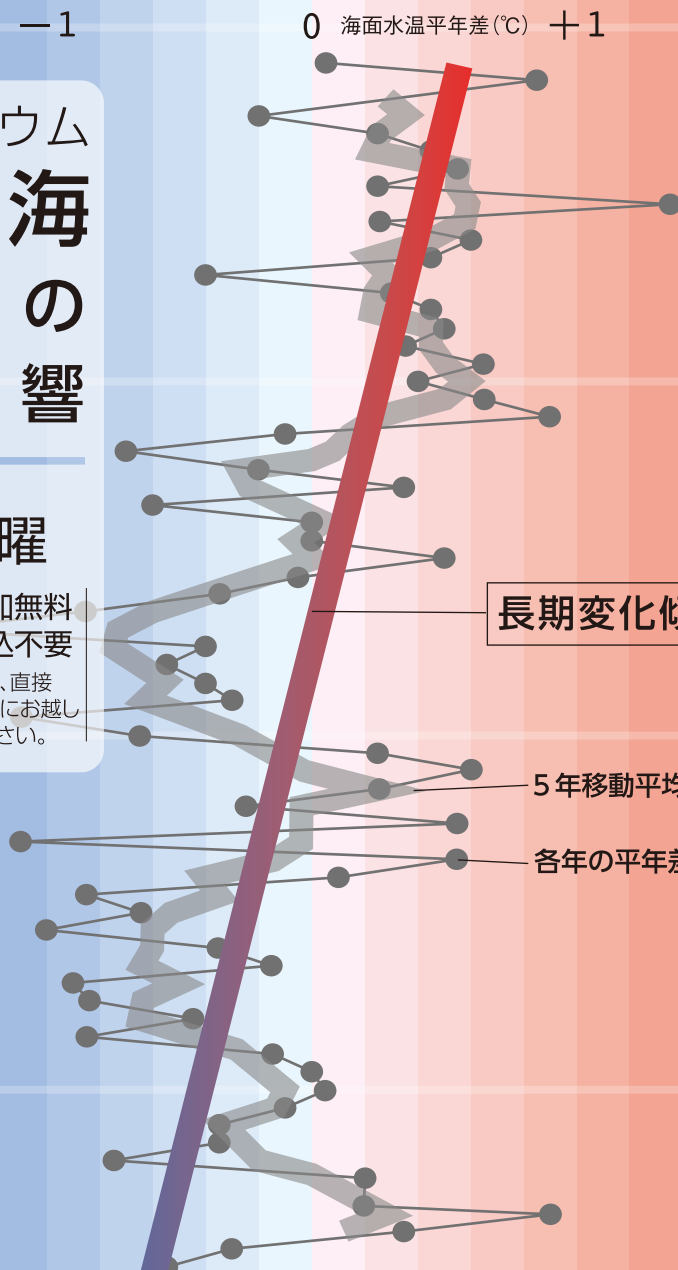
2019 9/29 日曜

9:00-16:45

富山国際会議場

多目的会議室 204 号室

参加無料
申込不要
当日、直接
会場にお越し
ください。



長期変化傾向

5年移動平均値

各年の平年差

2000

1980

1960

日本海では、世界平均の3倍のスピードで表層水温が上昇し、気候の変化や魚介類の不漁など、その影響は目に見える形となっています。それは日本海の「上流域」として捉えられる東シナ海でもみられ、生態系の変化は対馬暖流によって日本海の沿岸にも影響を及ぼしています。そこで、このシンポジウムでは気象、水文、海洋物理、海洋生物、海洋化学、水産学などの分野から、最前線の研究者による話題提供で議論を進めます。

また、午後のプログラムでは開催地「富山」をクローズアップ。わずか50kmの水平距離で、高低差4000mにおよぶ環境のもと、様々な変化の情報を共有しながら、SDGsも視野に入れた環境保全を考えます。

コンビナー 張 勁(富山大学)

小松輝久(横浜商科大学)

吉江直樹(愛媛大学)

背景のグラフ

「日本海中部の海域平均海面水温(年平均)統計期間1907~2018年」

出典: 気象庁ホームページ(<https://www.jma.go.jp/jma/index.html>)

グラフ「海面水温の長期変化傾向(日本海中部)」(気象庁ホームページより)加工して作成

主催: 日本海洋学会沿岸海洋研究会

協賛: 国立大学法人富山大学、富山テレビ放送株式会社

学術プログラム(一般公開)

- 9:00 会長挨拶・趣旨説明/松野 健(九大応力研)・張 勁(富山大理)
- 9:10 東シナ海: 物理的観点から/松野 健(九大応力研)
- 9:35 東シナ海: 生物的観点から/石坂丞二(名大宇地研)
- 10:00 東シナ海: 生態系の観点から
~低次生態系モデルによる100年後の栄養塩・プランクトン分布
/瀬藤 聡(水研機構・中央水研)
- 10:25 東アジアモンスーン・対馬暖流の変化/広瀬直毅(九大応力研)
- 10:50 休憩
- 11:00 対馬海峡から日本海への栄養塩輸送/森本昭彦(愛媛大 CMES)
- 11:25 九州から日本海沿岸の藻場の変化/小松輝久(横浜商科大)
- 11:50 日本海全海域の水産・漁獲変化/井桁庸介(水研機構・日水研)
- 12:15 温故知新: 過去7000年にみられる対馬暖流の流量変動と駆動因子
/堀川恵司(富山大理)
- 12:40 休憩

クローズアップフォーラム: 富山・富海・富幸(市民向け)

- 14:00 趣旨説明/張 勁(富山大理)
- 14:05 気象の観点から: 安永数明(富山大理)
- 14:30 物質輸送の観点から: 陸から海へ/張 勁(富山大理)
- 14:55 富山湾に流れ込む対馬暖流水と河川水/中田聡史(国立環境研)
- 15:20 富山湾のアマモ/寺内元基(NPEC)
- 15:45 富山湾の動物プランクトン/井口直樹(水研機構・日水研)
- 16:10 富山湾の漁獲変化/小塚 晃(富山水試)
- 16:35 まとめと将来展望
- 16:45 終了

1940

1920

1900